

# 2014年度 事業計画書

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

特定非営利活動法人さんぴいす

## 1 事業実施の方針

ひとを育てる まちを育てる 学びを育てる さんぴいす ～学びの原点は遊び！～

今年度はさんぴいすが法人化してから10周年となる節目の年である。そこで、あらためて原点に立ち戻り、さんぴいすが様々なセクターをつなぎ、ネットワーク化していくことでどこにもない新たな学びの場を創り出すことを目指して各事業を実施する。

### NPOの役割を社会に提唱し、その責任を果たす

NPOがこれまでの企業や行政の役割をも担う、新たなセクターとして今後一層重要とされるだけに、社会における役割を積極的に提唱できるように事業を実施する。企業、行政、地域をつなぎ、人々の自己実現のためにNPOが存在し機能することをさんぴいすは目指す。具体的には下記の4事業を重点にして提唱する。

- ①「ひょうご子育てコミュニティ」の事務局を担い、地域、行政、企業、大学などの事業者をつなぐ役割であることを周知させる
- ②「MIGAKU」事業の実施によりこれまでにない新たなNPOの役割の提唱を行う。→生活者の視点が活かされるコミュニティを機能させ、企業とともに共感を広めるしかけをつくる
- ③「芦屋バル」をコミュニティ再生の中心におき、まちの活性化をはかる
- ④アクティブラーニングアソシエーション(ALA)を活用し、子ども達の学力や学びに取り組む意識を向上させることが出来る、さんぴいすの「オリジナルメソッド」を広め、NPOが学校と社会との接点になることを目指す。

以下、事業毎に今期予定されている主だった活動について記す。

## 2 各事業部門方針

### ・子どもの健全育成事業部門

#### ーエマジェネティックス(EG)を活用した教育事業<学びを育てる>

##### 1 大学との共同研究

引き続き、EGを活用した学校教育現場での教育カリキュラムを大学と共に共同研究を行う。甲南大学との共同研究は最終年度を迎える。今年は教員へのヒアリング調査などをさんぴいすが実施する予定である。また、同志社大学政策学部の風間教授のゼミにおいても引き続き就活に役立たせるためのカリキュラム作成のためにコラボレーションを行う予定である。

##### 2 親子関係など家庭内の関係改善のための講習会の実施

昨年度、県より助成金を得て制作した思考特性の簡易診断カードを使った「子育てストレス解消講座」を、今年度も実施しEGの考え方を子育て中の保護者や子育て支援に関わる多くの人に浸透させていく。また、このカードを使った講習会を阪神地域だけでなく、他府県でも開催できるように、引き続き助成金等の獲得も目指す。

#### ーコミュニケーション力を高めることにより学力向上を図るプロジェクト<学びを育てる>

学習意欲を高めるためにさんぴいすオリジナルメソッドの開発

ALAを通して、さんぴいすのオリジナルメソッド(カリキュラム)の確立を目指す。

近畿2府4県にこのカリキュラムを広めるためには、講師養成が急務であることから、人材育成にも力を注ぐ予定である。そして、この1年で基盤を強化した後は、ALA自体を独立させて別法人とすることも視野に入れている。

## 一書籍出版

上記事業を事例としてまとめ、EGアソシエイト同志で共著して書籍出版を目指し、講演活動を開始する計画をたてている。

## 一環境学習<ひとを育てる>

これまでは、アシレンジャーを中心に活動をおこなってきたが、今年度からはより専門的な野外活動や市外の様々な施設を使った幼・小学生を対象とした冒険体験事業も開始し、保護者の多様なニーズに対応できるよう、活動の幅を広げていく。

## 一行政対象研修<ひとを育てる>

これまでの実績をもとに地域を拡大して実施回数を増やしたいと考えている。公式WEBページから行政研修の実績など成果をまとめた情報発信を強化し、他の自治体への更なる展開を目指す。

## 一キャリア教育<ひとを育てる>

兵庫県立大学で9月から非常勤講師として「キャリアデザイン」を担当する。また、前述した、ALAの活動もキャリア教育を抜きには考えられないことから、今年度はこれまで以上にキャリア教育のカリキュラムの作成を予定している。

## ・情報・科学技術の活用推進事業部門

### 一携帯電話・インターネットに関する勉強会<学びを育てる>

スマートフォンの急速な普及により、学校現場での研修のニーズが高まっていることを実感しているため、webなどを通じて広報活動を重点的に行う。また学校での講演および研修会の実施も引き続き行うことにより教育現場との関係性を強化して、さんぴいすが総合教育コンサルティングとして教育機関に認知してもらえるように取り組むことを予定している。

## ・コミュニティ活性化事業部門

### 一芦屋バルの開催<まちを育てる>

原則として年2回開催することを実行委員会で決めているが、5月の春バルで4回目となることから、開催時期や内容も再考する時期であると考えている。もちろん、まちおこしの一環として芦屋バルをとらえているので市民主導で企画提案しながら、企業や行政など様々なセクターを巻き込んで開催したいと考えている。

### 一本通り商店会活性化<まちを育てる>

本通り商店会の事務局機能をさんぴいすが担っているが、さらなる活性化をめざしコンサルティング業務など請け負うことを計画している。

### 一ひょうご子育てコミュニティ事務局業務

今年度も事務局を担うことにより、ひょうご子育てコミュニティが子育て支援団体のための中間支援組織となるように、組織運営に携わりたい。スポンサーを獲得するなどして来年度以降の自立を目指す。

## ・自立支援推進事業部門<ひとを育てる>

### 一思いで残し隊

事業の実施が遅れていたが、専属でおこなってもらえるアルバイトスタッフを養成し、今年度後半からの事業開始を目指す。また事業開始初期は、「ちょこっと」への折込広告と「子

育てなう！」からの情報発信でニーズの確認をする予定。

#### ーペルル・MIGAKU

2013年度に「MIGAKU」へ統合し、西宮阪急を中心に活動してきた。子育て文化祭やキラキラママ応援ウィークなどの催事を企画・運営し大きな成果を生みだした。今年度は、株式会社アイ・キューブとの連携をさらに強化しながら、「共創マーケティング」を確立させることを目指したい。MIGAKUでは子育て中の母親ならではの視点を活かした意見などを行政や企業に提案していくことなどが役割であり、それによって母親たちのキャリア支援につなげる。

#### ・市民活動支援事業部門<ひとを育てる>

##### ーちょこっと

今年8周年をむかえる。芦屋市内での子育て世代の認知度は高まっており、さんぴいすのシンボルともいえる存在になっている今、来年以降の発行を継続させていけるように運営体制を見直したい。紙媒体の良さを生かしつつ、Webとの連携を考えるなど前向きに改革を進めていく。

#### ・文化・伝統・技術等の伝承事業部門<学びを育てる>

アシレンジャーの活動やMIGAKUを通して異世代間の交流を促進し、互いの持つノウハウの伝承に協力をしていく。